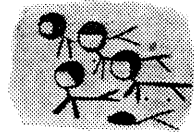


日ごろ努力していること

子どもの言語生活について



谷 野 恵 美 子

(一) はじめに

「教育は、やってもやってもきりのないしごと。深めれば深めるほど疑問の湧くもの。それだけにやりがいのある、また、楽しい仕事だから、できるだけ努力を惜しまないこと。そして、思い出したときには、たびたび、この幼稚園に訪ねていらっしやい。この約束が守れる人は、きつと、望ましいよい保育者になると思って、待っています。」と卒業に際して、及川先生のおことばでした。

実際に、自分で子どもたちとの生活をしてみて、限りなく湧き出る疑問や不安に対して、なんとか、一つずつでも解決をしていかなければならないし、いやが上にも、勉強を続けるような結果になっ
てしまいました。

勉強をすることは受身ではなく、すべて積極的に経験し、実験していかなくはいけないと思ひ、少しずつでも努力をしているつもりではいますが、経験を積んだ先生がたや専門的研究をなさっていらっしやる先生がたから御覧になると、私たちのこの努力がいわば「幼い研究」とでもいうのでしょうか、あぶなっかしげな、頼りなような努力と思われぬのもむりはないと思ひます。それだけに、出来るだけの努力はしたいと思ひますし、また、先生方から助言をしていただきたいし、意見をうかがいたい気持ちをじゅうぶんにもち、また、期待もしているのです。

ただ、深くつっこんだ研究をするとなると、私の今までの、また現在の状態では、無理なことが多く、可能ではないし、またそれ

が、あまりにも負担になって、毎日の教育にかえてマイナスの影響があつてはいけないと思ひ、自分の興味ある面の問題を取上げ、ふだんの生活の中で、とくに努力をするという形で進めてきました。

さいわい私の園でも、以前に話しことばについて研究したこともあり、小学校の先生二、三名と、園の主任の先生が、とくに言語の方面を専門に研究していらつしやるし、その他多数の先生がたにも恵まれ、御協力下さることにより、私の子どもの言語生活について努力していることが、なんらかの形で、自分ながらに少しずつでも整理されつつあるのをうれしく思っています。

(二) 今までに努力してみたもの。

新しい子どもたちを迎えて、年々、今年度の努力点は、何にしようかと、いろいろな意味での期待をしながら計画をたてることは楽しいものです。

次に言語の面で今までに努力してみたものについて、目標とかんたんな内容を記してみます。

全体的な目標にかかげたのは、自分の思ったことを、自由に話せるようにということで、話の出来ない子がないように指導しました。

◆昭和29年度(二年保育年長、一年保育混合)

正しいことはでできるだけ正しくわかりやすく話す

特に個人的指導に重点をおき、指導した全体での話し合いのルールもわからせ、楽しくみんなと話し合えるように試みました。

子どものことばを録音して、特徴やあやまりをみつれたり、実際にどの程度話を理解しているかをテストしてみたりしました。

進んでいる10人ぐらいの子どもには、デスマス体での表現法も指導してみました。結果的には、子どもたちはよく話をするようになり、デスマス体表現も、不自然ではない程度に自由に話ができるようになりました。

◆昭和30年度(二年保育年少)

発音、調音のあやまりを正しくする

年少組でも、生れの遅い方の組だったためか、目立って幼児発音の子が多かったので、一人ずつに写真をみせたり、反唱法などによって調査をしてみました。

例えば(上段は単語、下段は子どもが発音したもの)

ハサミ || ハタミ、ハチャミ

オダンゴ || オランゴ

ゾウ || ジョウ、ドオ

スズメ || チュジュメ、シュジュメ

キシヤ || キチャ、キタ

ザブトン || オジャブトン、オダブトン

ラジ || ジョ、ラジヨ、ラジヨオ

センセイ || サヨーナラ || チェンチェエチャヨーナラ、テンテエ

タヨーナラ

その結果、なんと約60%の子どもが不正確な発音、完全な子が男7%、女9%のこりの約20%が一部分不正確という状態におどろいてしまいました。

わかりきったことではありませんが、原因としては家庭内の甘やかせのためが多く、中には発声器官未発達と思われるものもありました。

矯正するのに、無理は絶対にいけないと思ひ、はじめは、個人指導はなるべくさけて、全体でことばあそびや、しりとりにあそびの中で、まちがいを感ぜとらせ、自然に矯正できるようにつとめました。二学期末には、約10%（男一名、女三名）をのぞいては完全に正しい発音ができるようになりました。

一例として、サ行がタ行に置きかえられて発音しやすい女兒の話をあげてみますと、

「キノオネ、^(ド)ローブツエンイッテネ、^(ソ)ドウトネ、^(リ)キイントネエ、^(ワ)ミテネエ、^(レ)ソイカラネ、^(サ)オトータマトネ、^(サ)オカータマトネ、^(ワ)ミヤコネータマト、^(サ)カーコネータマトネ、^(ス)アイツクリイム、^(サ)タベテネ、^(レ)カーコネータマワネ、^(フ)ソスタタバタノ。ソイデマツタカヤイッテアン^(ハ)ドバックカッタノ、^(ワ)ミヤコネータマモ、^(サ)カーコネータマモ、^(シ)テイロ^(レ)イノ、^(レ)ソイデ、^(ワ)オワリ。」

◆昭和31年度（二年保育年長）

「語彙をふやし、内容がゆたかな話ができるように。」

「聞き方の害をとりのぞき、能力を高める。」

前年度に、発音などの單語的な面に努力したので、この年には、話の内容的な面をのばすよう努力してみました。

話の内容がひん弱なものも、聞きかたの要領の悪いのも、結局、語彙不足が原因していることが大体わかったので、その点、とくに努力してみるようにつとめました。

一日一話を目標に、数多くの童話をきかせてみたり、特定の單語を加えた單文をつくらせたり、絵をみて話させたり、いくつかの單語から連想の創作話をさせたりしてみました。

前年度の経験から、発音の悪い子の中には、音いんをききわけける力が劣っているために、あやまってきき、その通り発音している例が少なくありませんでした。

その他、聞きかたの障害児として、

・話の内容を正しくききとる能力が劣っている子、聞いてわかる單語が少ない子、必要な語句を、ある時間記憶している力が劣っている子、長く注意を集中している力が劣っている持続性の短い子、進んで聞くとうとしない子などがありました。

そのためにも、特につづき語をなるべく多くするように努め、毎日楽しみにしている子は、聞きかたのよい子に多く、だんだん興味の薄れていく子は、たいていきき方の悪い子というような結果も出ました。

ひとりの脱落者もなく、全員があるレベルまでと少々無理をした感じもありましたが、男児三名、女児一名は、どうも私の期待通りには出来ませんでした。

この年は、語彙指導も思うように出来ず、結局は、楽しく話をし、そして楽しく話を聞く、という点にしか効果はあがらなかったように思います。

◆昭和32年度（一年保育）

「子どもとよく話し合う」

「子どもの話をよくきく」

今までの保育だけに無中だった時期もすぎ、なんとなくこの年から、自分自身落着き、よゆうができたようにも感じ、先生対子ども結びつきを、今までよりもっと人間らしい、あたたかみのあるものにしたと願っていました。

今までのような、話しことばの指導的なものから少しはなれ、子どもたちとおしゃべりをしてみて、その中から子どもの自然の言語生活をしり、子どもたちもっている語彙、話しかたが、以前とどのように変化しつつあるか、実際の生のままを知りたいと思い、またその中で、なんらかの自然の形で指導法をみつけれ出し、努力できると思いました。

そして、なるべく子どもの話をメモするよう努力しました。

結果的には、少し口達者といわれるような子になってしまった数

人の子どもたちもありましたが、誰もが、思ったことを素直に表現し、自分の考えをまとめる力が伸びたように思います。一人の脱落者もなく、すべての子どもが楽しんで話をするようになり、また人の話も喜んで聞くようになりました。

(三) 子どもの話をキャッチし、メモしてみる。

◆年長組女児

A 「あなたのこの洋服どこで買ったの。」

B 「大丸よ。」

A 「あんたんち大丸。うちは高島屋よ、高島屋のもんはね、みんなしゃれてるでしょう。」

B 「あら、大丸は安いのよ。」

A 「あらやだ、高島屋の五階も安いわよ。」

B 「行きも大丸、かえりも大丸！」

A 「そんなのよりか、今はやってんのは、有楽町で逢いましょうっていうのよ。」

◆年長組男児

A 「僕ね、今貯金してるよ。」

B 「僕だってやってるさ。」

A 「いくらたまった。」

B 「えーと、三千円かな。」

A 「たった、それっぽっち。」

B 「よくわかんないや、五千円だったかな。」

A 「たったア。僕はね、三万八千円だもん、自分でちゃんと知ってるんだよ。」

B 「だって、僕んちのママがやってくれるんだから。」

A 「僕はね、自分で ためて いいもの 買うのさ。」

B 「僕だって、勉強する机買うよ。」

A 「僕はね、お母さんに、着物かってあげてね、先生にテレビかってあげて、僕はね、白雪姫のレコードかって、お姉ちゃんにはカール人形のいいやつかってあげるんだ。」

◆年長組女児Y子ちゃんの話

「先生、先生は、いっとうだれがすき？」

「でも だれか一人、いっとう すきな人はだあれ？」

「Y子のことすき？」

「N子ちゃんよりすき？」

「N子ちゃんはね、アメリカ中で 一番先生が好きなんだって。」

「あたしは、先生が大好きだから、先生が家の人になっちゃうといいな。お母さんが二人いるといいよ。お母さん おこったときは、先生のお母さんにくっつきになっちゃうもん。」

「あたしは、大学そつぎょうしてから、会社へいって、お金、たくさんもらったら、先生に 何かかってあげるね。何がいい？」

「じゃあ フェルトのスカートは？」

「赤い高い靴にしようか。先生は、赤い靴ってないでしょう。」

「じゃあ 口紅は？」

「あたしがおとなになると 先生 お婆さん。へえ、汚いなあ、先生も お婆さんになるの やだねえ、なんで お婆さんなんかになるんだろう。いやだね。きもちがわるいね。」

◆年長組男児

(私が「ヨイコラシヨ」といって立ち上ったのを聞いて)

A 「どうして、先生は そんなに、おもたいの。」

B 「あたり前だよ、先生は、お尻がおもたいんだよ。」

C 「ちがうよ、からだがおおきいから、空気にぶつかるところが 沢山あるからだよ。」

A 「なんでエ。」

C 「空気なんか 目に見えないけど、おもたいんだよ。」

B 「ちがうよ、先生だからだがおもたいんだよ。高橋先生みてみな。おなかに赤んぼがいるからだよ。こないだ、歩いてるときも ヨイシヨ ヨイシヨっていったよ。」

C 「じゃへんだよ、五十嵐先生はね、靴はくとき、ヨイコラシヨ オノドッコラシヨっていったよ。」

A 「靴なんか おもたかないのね。」

C 「疲れてんだろ。」

B 「疲れたときは、ヤレヤレだよ。」

C 「アア　そおか。」
◆年長組　男女児

A 「先生は、どうして、ごはんたべないの。」

B 「びんぼうだから？」

C 「どうして給食はパンなの。」

B 「栄養あるから？」

D 「ね、先生はモダンなんだよ。パンはアメリカ式なんだろ。」

(四)　さいごに

自分で経験したことをそのままに書いてみましたが、反省してみると、子どもたちにとっては、それが負担であり、また適切な指導

日ごろ努力していること

リトミックによるリズム指導

清　水　久　仁　子

私たちの生活、またその周囲にはあらゆるところにリズムが存在する。取りまく数多くの環境、四季おりおりの移り変わり、今日暮れて

でなかつた点も多々あり申訳なく思うのですが、私個人にとって非常によい勉強になっていることはたしかです。

今年も、園の努力点の一つに、「子どもの話しことばをのばすための指導の研究」が、かかげられています。そして、継続的に研究をして、みんなの勉強のために、学期に一回ずつの組単位発表研究会をおこなう予定が組まれています。

今年も、二年保育年長組を受持ちました。子どもたちの話し合いの中にとけ込み、今一歩進歩した指導法を、実際の子どもたちとの生活の中から生み出し、楽しい生活の中にも何か、はつきりとした目標をもって努力していくつもりでおります。
(久松幼稚園)

また明日を迎える喜び。一挙手一動すべての行動にいたるまで。そしてわれわれはこの自然の中に存在するリズムに調和出来た時こそ、